

令和6年度の業務実績の概要について (公立大学法人青森県立保健大学)

令和6年度においては、「年度計画を上回って実施している」S評価又は「年度計画を十分に実施している」A評価が86項目(100%)であり、全体的な状況としては順調に計画を実施することができたと自己評価している。

大項目	小項目の 自己評価結果	「S」と判断した業務実績の内容
1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置(教育)	S 10 A 31	【1】入学者選抜方法 <u>①入学者選抜方法における「入試の検証」(小項目No.2)</u> <13ページ> 計画に基づき、入試の検証を実施した。県の中期目標の変更を受け、学校推薦型選抜試験の選抜方法を変更する計画立案を迅速に行った。県内からの学校推薦型選抜の枠の増加に加え、試験内容に関わる改革を行い、受験生の不利益を最小限にするためにその内容を速やかに公表したことから、自己評価をSとした。 【2】学生募集方策 <u>②学生募集方策における「学生募集の継続と新たな学生募集方策の検討・実施」(小項目3)</u> <14ページ> 計画に基づき、学生募集の継続と新たな学生募集方策の検討・実施をした。これに加え、小中学生対象の新規事業を複数立ち上げ、好評を得た。少子化が進む中でも、オープンキャンパスの来場者数を維持したことから、自己評価をSとした。 【3】学生募集方策の検討及び実施 <u>③学生募集方策の検討及び実施における「本学学部生や保健、医療及び福祉の関連団体等への積極的な広報の推進」(小項目6)</u> <17ページ> 計画に基づき、学部生や保健、医療及び福祉の関連団体等への広報を積極的に推進し、小項目No.7との相乗効果により、ストレートで博士前期・後期課程に入学する学生や、多様な背景をもつ学生の獲得につながったことから、自己評価をSとした。なお、大学院定員増加について、学内外での必要な手続きを進めた。 【5】教養教育 <u>④教養教育における「健康科学総合教育部門と専門教育との連携による教養教育の充実」(小項目12)</u> <19ページ> 計画に基づき、人間総合科学科目の円滑な運営を行い、第6次カリキュラム(令和7年度～)に向けた科目の準備も順調に進めた。多職種連携、社会への貢献、グローバルな視野の涵養に資する科目の設置など、計画以上の成果が得られたことから、自己評価をSとした。 【7】専門教育 <u>⑤専門教育における「理学療法学科」(小項目15)</u> <21ページ> 計画に基づき、教育を十分に実施し、国家試験合格率100%、本学大学院への進学者3名の確保、就職率100%の成果を得た。さらに、海外留学生対象の長期臨床実習を実施し、本学学生との交流を通じたグローバルな専門職養成につながる先駆的取組を成功させたことから、自己評価をSとした。 <u>⑥専門教育における「社会福祉学科」(小項目16)</u> <22ページ> 計画に基づき、国家試験の新出題基準への対応や実習指導者と連携した教育を十分に実施し、国家試験合格率は、社会福祉士88.0%、精神保健福祉士100%と高い水準を維持した。さらに、個別的就職支援や就職先担当者との連携により、県内就職率も高く維持したことから、自己評価をSとした。 【9】大学院生の教育と研究推進(博士前期課程) <u>⑦大学院生の教育と研究推進(博士前期課程)における「研究発表及び学内研究費助成制度への応募の促進」(小項目20)</u> <24ページ> 計画に基づき、大学院生への意識付け等を十分に実施し、研究発表や学内研究費助成制度への応募を促した。それらの結果から、学会発表件数が目標を大きく上回るなど、研究活動の活性化がみられたことから、自己評価をSとした。 <u>⑧大学院生の教育と研究推進(博士前期課程)における「研究成果の地域社会への還元」(小項目21)</u> <24ページ> 計画に基づき、大学院生への意識付け等を十分に実施し、地域社会への研究成果の還元件数が目標を大きく超えたことから、自己評価をSとした。 <u>⑨大学院生の教育と研究推進(博士前期課程)における「ヘルスプロモーション戦略研究センターの研究・調査との連携の推進」(小項目22)</u> <25ページ> 計画に基づき、研究センターの研究・調査と連携し、センター所掌の「若手・大学院生奨励研究」に関して、応募・採択件数や青森県保健医療福祉研究発表会での発表件数が多かったことから、自己評価をSとした。 【12】適正な教員採用と編成 <u>⑩適正な教員採用と編成における「将来を見据えた教員採用と編成」(小項目30)</u> <28ページ> 計画に基づき、教員採用を進めたことに加え、本学独自の制度設計による「特別研究教授」は、卓越した教授を招聘し、大学院の充実とアジア諸国からの学生の育成を進めるために効果的であったことから、自己評価をSとした。
	計 41	

2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置(研究)	S	0	
	A	5	
	計	5	
3 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置(地域貢献)	S	3	【22】保健医療福祉人材への継続教育 ①保健医療福祉人材への継続教育における「専門職向けの研修会の企画・実施」(小項目50) <42ページ> 計画に基づき、専門職向けの研修会の企画・実施したことに加え、公衆衛生学修士(MPH)プログラムの特別聴講の受け入れ、八戸市立市民病院との連携による認定看護師教育課程の運営の確立など、計画以上の実績があったことから、自己評価をSとした。 【24】地域に必要な人材輩出 ②地域に必要な人材輩出における「若者の県内での活躍・定着を推進する事業」(小項目54) <44ページ> 計画に基づき、県内における若者の活躍・定着を目的とした事業を十分に実施した。中でも「採用力向上セミナー」の高評価に加え、保健師に対する支援を通じて新卒で市町村保健師として就職する学生の増加がみられ、県内就職率の向上もみられた。これらの成果は計画を上回るものであったことから、自己評価をSとした。 ③地域に必要な人材輩出における「地域定着枠関連事業」(小項目55) <45.46ページ> 計画に基づき、地域定着枠関連事業を十分に実施した。特筆すべきは、入試での地域定着枠は他県にも例はあるが、連携病院との協働による入試段階からの包括的キャリア支援プログラムの構築は全国初である。見学・インターンシップ・交流会から、卒後のキャリア支援までを系統的に網羅したこの取組は、大学内外の調整やシステム構築に多大な努力を要したが、その結果として、志願者の増加、協力病院の理解の深化、第1期生の連携病院への就職が実現した。また、受け入れ病院のスタッフの意識変容や地域連携の促進にもつながったことから、自己評価をSとした。
	A	8	
	計	11	
4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	S	1	【26】組織の再編・見直し ①組織の再編・見直しにおける「2040年に向けた高等教育のグランドデザインを踏まえた組織の再編・見直し」(小項目No.61) <48ページ> 本学の将来構想やグランドデザイン策定後の社会情勢の急速な変化を踏まえ、本学の将来像について自由闊達な議論を展開した。新しい発想を尊重しつつ、10年・20年後先を見据えたマネジメント能力育成にも配慮した検討を重ね、将来的な組織発展に資する人材育成にもつなげた点を評価し、自己評価をSとした。
	A	10	
	計	11	
5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	S	0	
	A	6	
	計	6	
6 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	S	4	【35】大学の自己点検・評価及び外部評価 ①大学の自己点検・評価及び外部評価における「第三者評価機関による評価の受審」(小項目No.76) <53ページ> 青森県地方独立行政法人評価委員会による外部評価においては、令和5年度計画は全て着実に実施されているとの評価を得た。第三期中期目標期間(終了時見込)実績は、7項目中6項目が「順調(4)」、「教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況にかかる情報の提供に関する目標を達成するための措置」については、「特筆すべき(5)」とされ、改善勧告を要する事項はなかった。理事長の強いリーダーシップの下、業務改善による成果が得られ、教職員と学生の連携による広報活動も高く評価された。また、県からの第三期中期目標の一部変更に対応して、中期計画の一部変更を検討し、評価委員会でも適切と承認されたことから、自己評価をSとした。 【36】教員個々の自己点検・評価と目標設定 ②教員個々の自己点検・評価と目標設定における「FDマップの周知、活用、改善」(小項目No.78) <54ページ> 従来のFDマップの活用にとどまらず、本学の現状と将来に即した教員像に基づく新たな育成指針となる新FDマップへと進化させた。さらに、これを学内に広く周知するための取組も高く評価されたことから、自己評価をSとした。 【37】情報公開・広報推進 ③情報公開・広報推進における「情報公開の推進」(小項目79) <55ページ> 社会的説明責任を果たすべく、必要な情報をホームページに適時に公開した。広報戦略の立案とこれに基づく計画的かつ効果的な情報発信を実施した。特に、中期計画の変更に伴う記者発表においては、本学の県内定着に関わる諸施策の全体像を明確に提示した。教学共同事業の広報が市民からの寄付に結びつく等、広報活動の波及効果がみられるなどの成果を挙げたことから、自己評価をSとした。 ④情報公開・広報推進における「幅広い広報媒体の活用」(小項目No.80) <56ページ> インスタグラムやYouTubeへの情報発信体制を整備し、安全かつ効果的な運用を実現した。学生の積極的な参画を得ながら、多面的な情報公開を行い、フォロワー数やリーチ数の増加といった成果も明確であったことから、自己評価をSとした。
	A	2	
	計	6	
7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	S	0	
	A	6	
	計	6	